

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村山 一弥

事業名	一般国道54号 <small>かべ</small> 可部バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自： <small>ひろしま ひろしま あさきた かべみなみ</small> 広島県広島市安佐北区可部南一丁目 至： <small>ひろしま ひろしま あさきた おおはやしちょう</small> 広島県広島市安佐北区大林町				延長	9.7km
事業概要						
一般国道54号は、広島県広島市から島根県松江市までを結ぶ延長約180kmの主要幹線道路である。 可部バイパスは、広島県広島市安佐北区可部南一丁目と広島市安佐北区大林町を結ぶ延長9.7kmの道路である。 事業目的は、広島市可部周辺の慢性的な交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保を図るものである。						
S56年度事業化		S56年度都市計画決定		S58年度用地着手		H2年度工事着手
全体事業費	約736億円	事業進捗率 (H29年度末見込)	84%	供用済延長	8.2km	
計画交通量	16,700 ～ 50,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (3便益) (事業全体) 2.2 (残事業) 3.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 121 / 1,072 億円 事業費：93/ 1,018 億円 維持管理費：28/ 53 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 433 / 2,383 億円 走行時間短縮便益：404/2,170億円 走行費用減少便益：12/155億円 交通事故減少便益：17/ 58億円	基準年 平成26年		
感度分析の結果						
(事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.5 (交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.0～4.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=2.2～2.2 (事業費±10%) 事業費：B/C=3.3～3.9 (事業費±10%) 事業期間：B/C=2.2～2.3 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.3～3.8 (事業期間±20%)						
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間の削減が期待される。 ・現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。 ・現道（旧国道54号）を利用するバスの定時性向上が期待される。 ②物流効率化の支援 ・日常活動圏安芸高田市から中心都市の広島市への所要時間が6分短縮【103分→97分】された。今後更なるアクセス向上が期待される。 ③個性ある地域の形成 ・ガラスの里資料館（H28観光入込客数：5.9万人/年）へのアクセス向上が期待される。 ④災害への備え ・第三次救急医療機関（広島市民病院）への所要時間が1分短縮【50分→49分】された。今後更なるアクセス向上が期待される。 ・広島県の地域防災計画における第1次緊急輸送道路として機能する。 ⑤地球環境の保全 ・CO <sub>2</sub> 排出量の削減が期待される。 ⑥生活環境の改善・保全 ・NO <sub>x</sub> 排出量の削減が期待される。 ・SPM排出量の削減が期待される。						

関係する地方公共団体等の意見

広島市長の意見：

一般国道 54 号可部バイパスの事業再評価に係る対応方針（原案）については異存ありません。可部バイパスは、広島広域都市圏の連携強化に欠かせない道路であるとともに、新安佐市民病院（仮称）へのアクセス道路の一つとして位置付けられるなど、安佐北区のまちづくりにとっても重要な道路であることから、引き続き着実な事業展開が図られるようお願いいたします。特に、国道 191 号との交差点では、平成 26 年の暫定供用後においても依然として交通渋滞が生じていることから、その緩和のためにも、早期に国道 191 号以南の 4 車線化を図られるようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

- ・事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。
- ・審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・広島市北部地域は、宅地化が進み、人口増加による通勤・通学交通の増加や広島都心部への交通等により、慢性的な交通混雑や交通事故が発生している。
- ・また、可部バイパス周辺では、平成 29 年 3 月に JR 可部線の延伸区間が開業し、平成 34 年春には安佐市民病院の建替えが予定されている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成 29 年度末で用地買収の進捗率は 99%見込みである。
- ・平成 29 年度末で事業全体の進捗率は 84%見込みである。
- ・現在までに広島市安佐北区可部南 1 丁目から大林ランプ間までの約 8.2km が暫定開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、暫定 2 車線開通後の残る課題に対し、早期に改善・緩和するよう事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業実施にあたっては、コスト削減を図りつつ事業を推進していく。

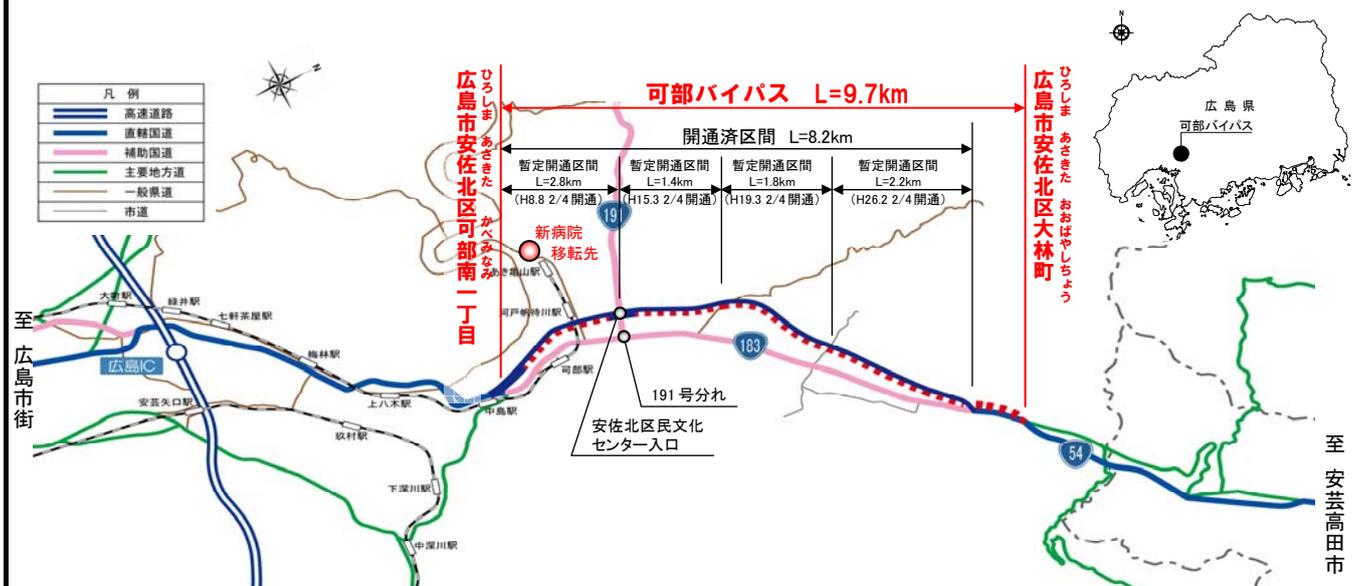
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものです。